

平成27年度全国学力・学習状況調査

# 貝塚市の結果

貝塚市教育委員会

## 平成27年度全国学力・学習状況調査 貝塚市の結果

### もくじ

I. 調査の概要（文部科学省）	P. 1
1. 調査の目的	
2. 調査の対象	
3. 調査の内容	
II. 結果の概要について	P. 2
1. 各教科の分析	P. 2
2. 領域・問題別の正答の状況と問題について	P. 3
・小学校 国語・算数・理科	
・中学校 国語・数学・理科	
III. 基本的な生活習慣等について（児童生徒質問紙調査より）	P. 6
IV. 学校生活・学習等について（児童生徒質問紙調査より）	P. 8
V. 今後に向けて	P. 9

# 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について

平成27年10月 貝塚市教育委員会

4月21日に文部科学省により全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に「平成27年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。

貝塚市教育委員会は、この分析結果を保護者や地域の方々と共有し、今後の本市の教育施策や学校の取組みに活かすことにより、本市教育を一層充実させて参ります。

なお、この学力調査により、測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を表すものです。

## I. 調査の概要（文部科学省）

### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### 2. 調査の対象

- 小学校及び支援学校小学部 6年生
- 中学校及び支援学校中学部 3年生

### 3. 調査の内容

#### ○教科に関する調査

- 小学校： 国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）  
国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）  
理科（主として「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に出題）

- 中学校： 国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）  
国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）  
理科（主として「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に出題）

#### ○質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

## Ⅱ 結果の概要について

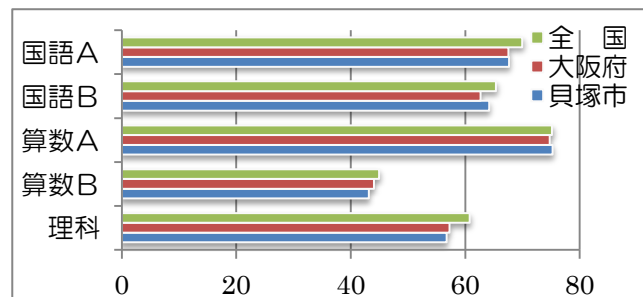
### 1. 各教科の分析

A区分：知識・技能に関する問題

B区分：活用する力に関する問題

#### (1) 小学校

教科	区分	貝塚市	大阪府	全国
国語	A区分	67.7	67.6	70.0
	B区分	64.2	62.7	65.4
算数	A区分	75.3	74.8	75.2
	B区分	43.2	44.1	45.0
理科		56.8	57.3	60.8



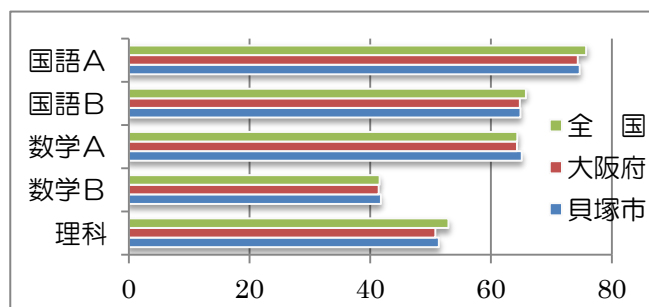
※「貝塚市」、「大阪府」、「全国」としているのは、貝塚市内公立学校・大阪府内公立学校・全国の公立学校の平均正答率(%)を表しています。

小学校のA区分では、国語では、大阪府平均(以降、府平均と記します)を0.1ポイント、算数で府平均を0.5ポイント、全国平均(以降、国平均と記します)を0.1ポイント上回りました。今回出題された学習内容の知識・技能の定着が概ね図られています。

B区分では、国語では、府平均を1.5ポイント上回り、算数では0.9ポイント下回りました。算数に関しては、今回出題された活用する力に課題が見受けられます。理科に関しては、0.5ポイント府平均を下回り、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に課題が見受けられます。

#### (2) 中学校

教科	区分	貝塚市	大阪府	全国
国語	A区分	74.7	74.4	75.8
	B区分	64.9	64.8	65.8
数学	A区分	65.1	64.3	64.4
	B区分	41.8	41.4	41.6
理科		51.4	50.8	53.0



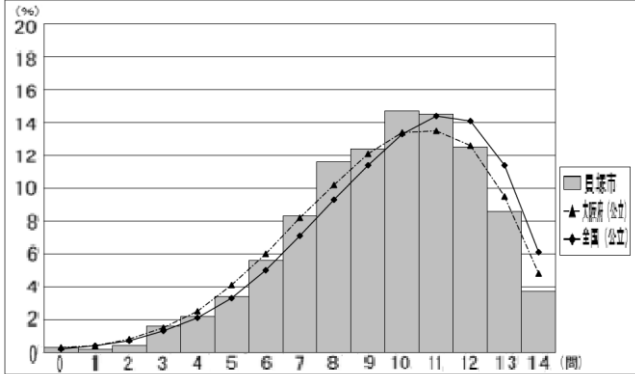
中学校のA区分では、国語で0.3ポイント、数学で0.8ポイント府平均を上回り、0.7ポイント国平均を上回りました。今回出題された学習内容の知識・技能の定着が図られています。B区分では、府平均を国語では、0.1ポイント、数学では、府平均を0.4ポイント、国平均を0.2ポイント上回りました。理科に関しては、0.6ポイント府平均を上回りました。

## 2. 領域・問題別の正答の状況と課題について

### 小学校国語

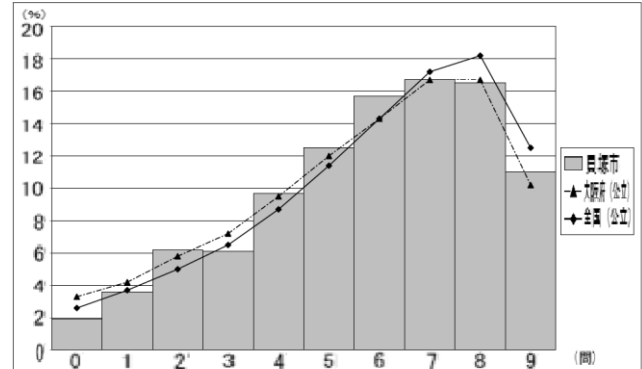
#### 国語A

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



#### 国語B

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



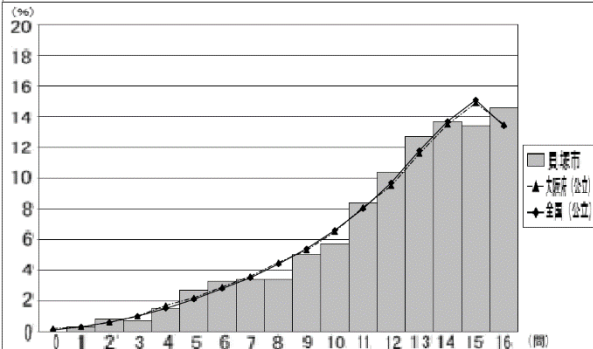
国語A(主として知識)では、概ね定着が図られていますが、文の中における主語を捉えること、新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えることに課題がみられます。

国語B(主として活用)では、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くこと、文章と図を関係付けて読み、目的に応じて文章の言葉を適切に引用し、自分の考えを書くことに課題がみられます。

### 小学校算数

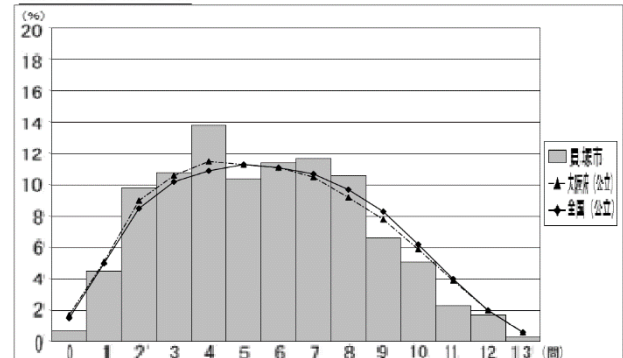
#### 算数A

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



#### 算数B

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

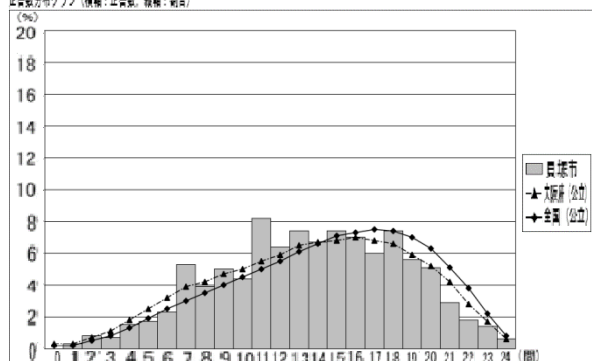


算数A(主として知識)では、概ね定着が図られていますが、分度器を用いて、 $180^\circ$ よりも大きい角の大きさを求めること、示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択することに課題がみられます。

算数B(主として活用)では、示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めること、長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述することに課題がみられます。

## 小学校理科

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

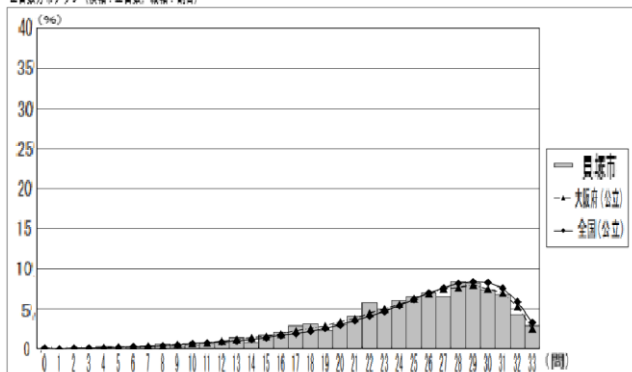


理科では、顕微鏡を適切に操作すること、植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用してその内容を記述すること、析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述すること、方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析すること等に課題がみられます。

## 中学校国語

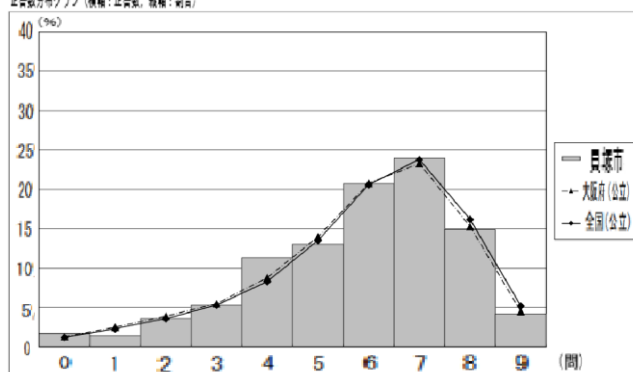
### 国語A

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



### 国語B

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



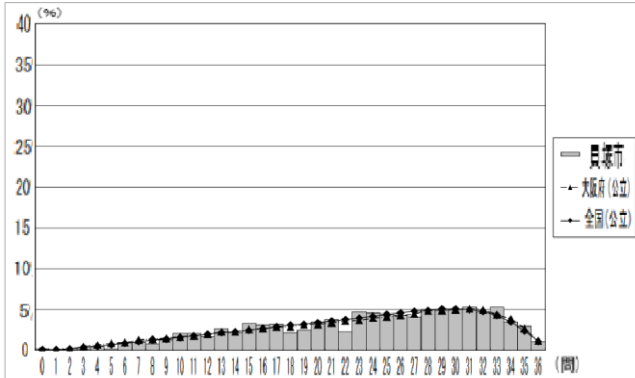
国語A (主として知識) では、概ね定着が図られていますが、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと、手紙の書き方を理解して書くことに課題がみられます。

国語B (主として活用) では、概ね定着が図られていますが、複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くこと、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がみられます。

## 中学校数学

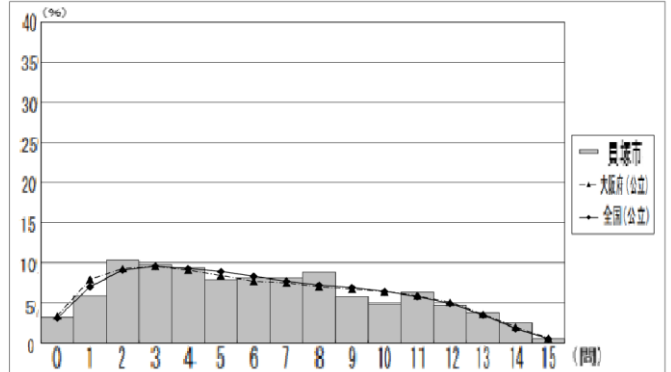
### 数学A

正整数分布グラフ (横軸: 正整数, 縦軸: 割合)



### 数学B

正整数分布グラフ (横軸: 正整数, 縦軸: 割合)

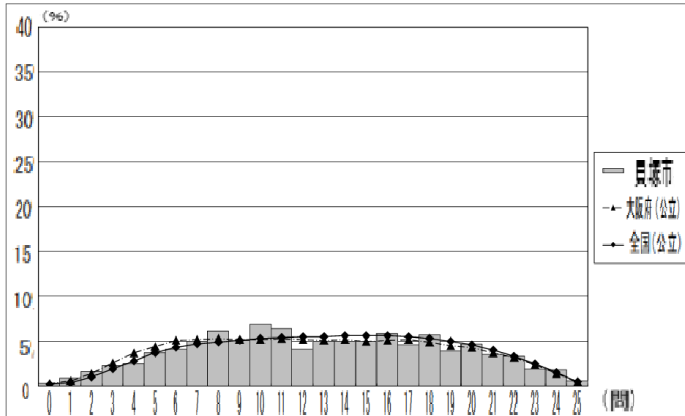


数学A（主として知識）では、数量の関係を文字式に表すこと、具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること、証明の必要性和意味理解に課題がみられます。

数学B（主として活用）では、事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明すること、図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明すること、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられます。

## 中学校理科

正整数分布グラフ (横軸: 正整数, 縦軸: 割合)



理科では、友だちの考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明すること、音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画すること、実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘すること、露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘すること、一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験を計画することに課題がみられます。

### Ⅲ. 基本的な生活習慣等について（児童生徒質問紙調査より）

\*グラフの数値は、貝塚市の平均正答率（%）を表示

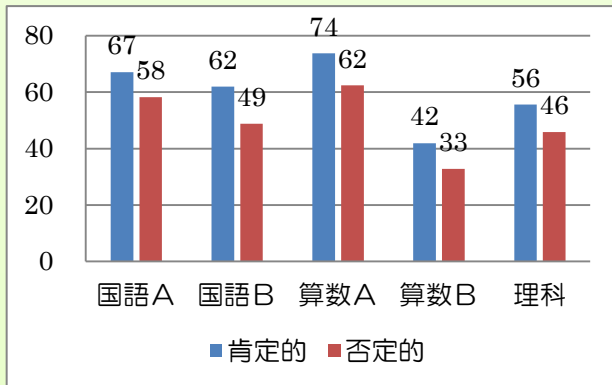
- ① 「毎日朝食を食べている」子どもの割合は、小学校、中学校ともに全国平均とほぼ同じ割合になり、昨年よりポイントが伸びました。朝食について肯定的回答をした子どもと否定的回答をした子どもの平均正答率を比較しました。小、中学校ともに、どの教科も、肯定的回答をした子どもの平均正答率が高くなっています。

毎日朝食を食べている、どちらかといえば食べている・・・肯定的回答

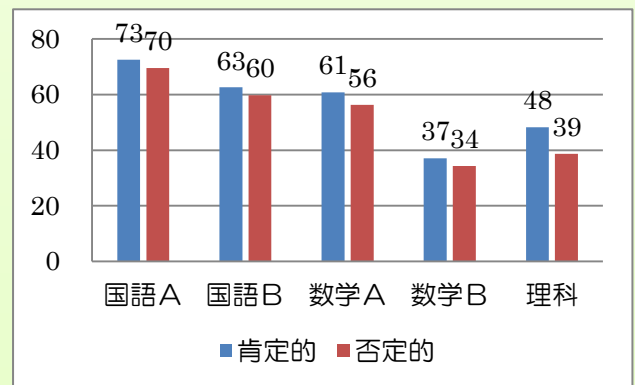
あまり食べていない、全く食べていない・・・否定的回答

朝食の摂取と学力の相関関係について

小学校



中学校

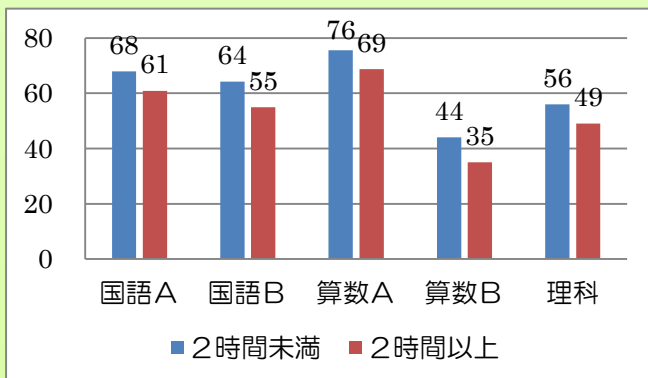


- ② 携帯・スマートフォンを2時間以上使用する割合は、小学校では、府平均より、0.4ポイント、中学校では、府平均より 2.5ポイントそれぞれ高くなっており、携帯への依存が懸念されます。昨年に比べて小学校では、1.2ポイント低く、中学校では、2.5ポイント高くなっています。

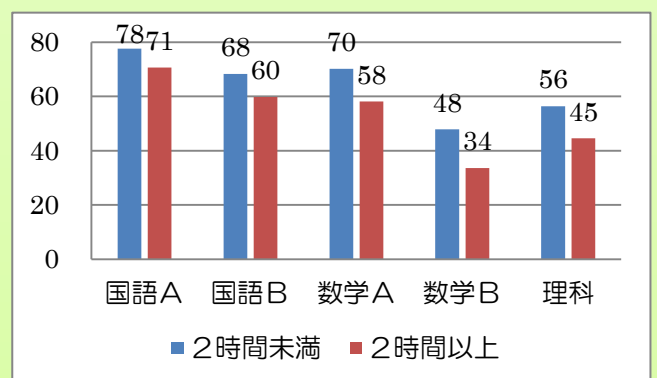
携帯・スマートフォンを2時間以上使用する子どもと2時間未満の子どもの平均正答率を比較しました。小、中学校ともに、どの教科も、2時間未満の子どもの平均正答率が高くなっています。

携帯・スマートフォンの使用と学力の相関関係について

小学校



中学校

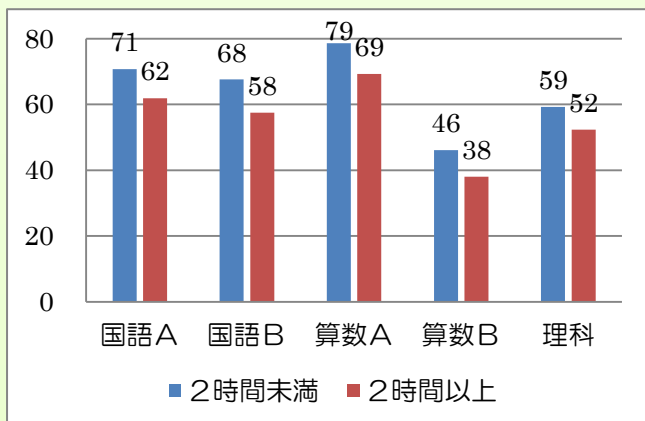




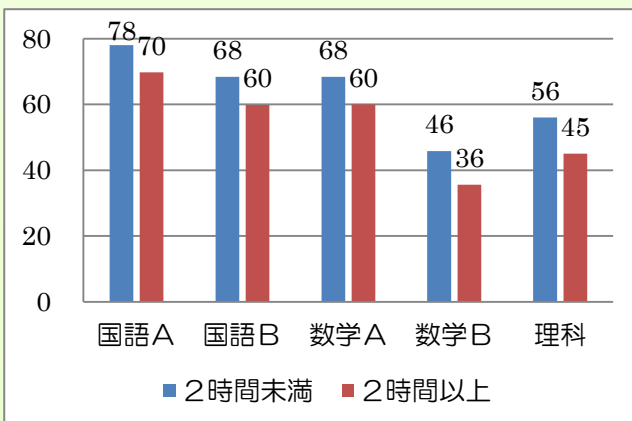
- ③ 1日あたりテレビゲームを2時間以上する子どもの割合は、小、中学校ともに府平均を下回りました。1日あたりテレビゲームを2時間以上する子どもと2時間未満の子どもの平均正答率を比較しました。小、中学校ともに、2時間未満の子どもの平均正答率が高くなっています。

テレビゲームの使用と学力の相関関係について

小学校



中学校

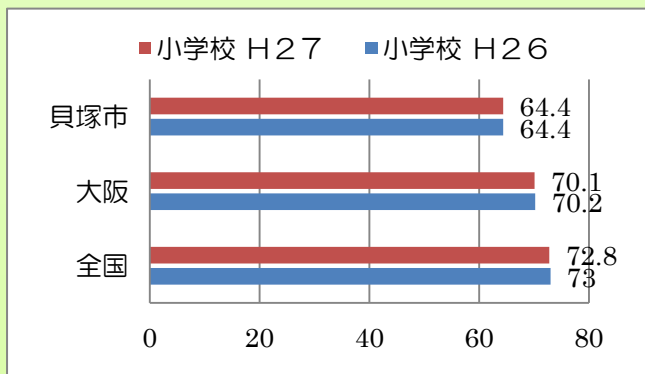


※1日あたりテレビゲームを2時間以上する子どもの割合は、小学校で府平均より3.3ポイント低く、中学校では、府平均より0.1ポイント低くなっています。昨年に比べて小学校では6.1ポイント低く、中学校では、2.7ポイント高くなっています。

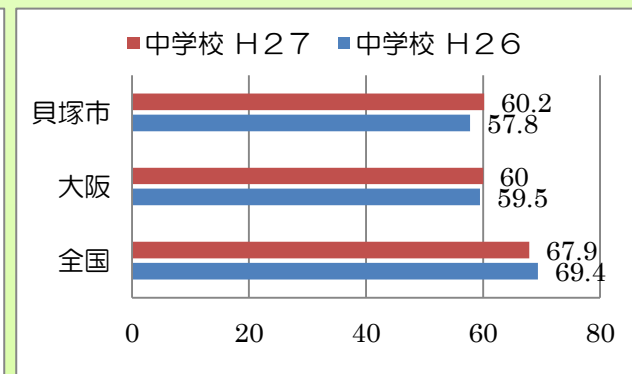
- ④ 「読書が好き」と肯定的回答した子どもの割合を経年比較しました。読書が好きな子どもの割合は、今年、小学校では、府平均よりも5.7ポイント低く、中学校では、0.2ポイント高い割合になっています。小学校は、昨年と同じ割合で、中学校では、2.4ポイント高くなり、全国平均との差は近づいています。

「読書が好き」と肯定的回答した子どもの市・府・国の割合(%)

小学校



中学校



## IV. 学校生活・学習等について（児童生徒質問紙調査より）

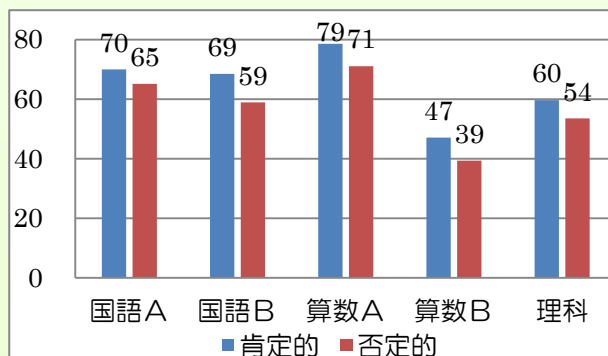
\*グラフの数値はすべて貝塚市の平均正答率（%）を表示

①「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の質問で肯定的回答をした子どもの割合は、中学校では、国・府よりも 6.1 ポイント低く、小学校では、ほぼ同じ割合でした。小学校では、肯定的回答をした子どもの平均正答率が、否定的回答をした子どもよりも高くなっています。

（中学校では、あまり差はみられませんでした。）

得意、どちらかといえば得意・・・肯定的回答  
あまり得意でない、全く得意でない・・・否定的回答

【小学校】 友だちの前で自分の考えや意見を発表することと学力の相関関係について

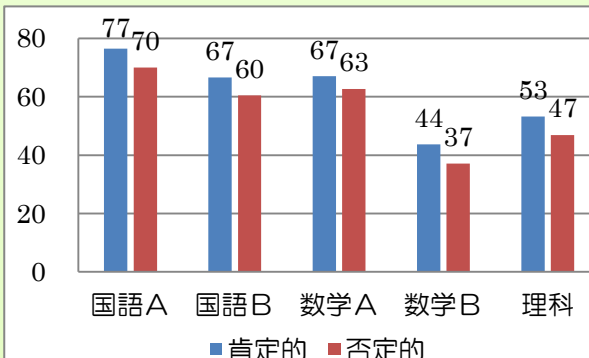


②「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」の質問で肯定的回答をした子どもの割合は、中学校では、国よりも 2.5 ポイント低く、小学校では、3.3ポイント低い割合でした。中学校では、肯定的回答をした子どもの平均正答率は、否定的回答をした子どもよりも高くなっています。

（小学校では、あまり差はみられませんでした。）

している、どちらかといえばしている・・・肯定的回答  
あまりしていない、全くしていない・・・否定的回答

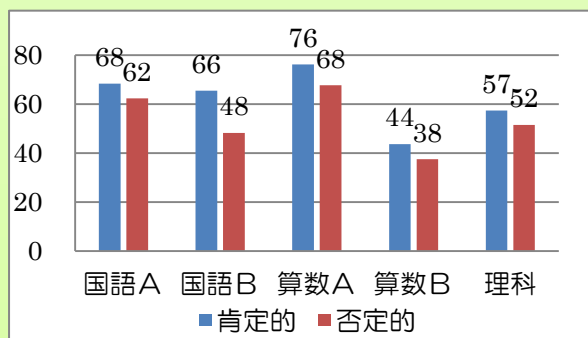
【中学校】 家の人と学校での出来事について話をすることと学力の相関関係について



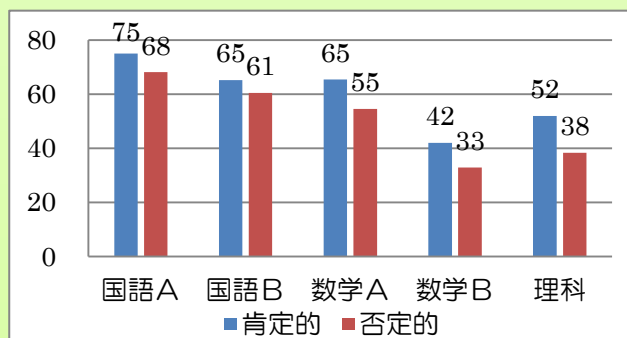
③「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができますか」の質問で肯定的回答をした子どもの割合は、小・中ともに、国・府平均とほぼ同じ割合でした。小、中学校ともに、肯定的回答をした子どもの平均正答率は高くなっています。

友だちの話や意見を最後まで聞くことと学力の相関関係について

小学校



中学校



## V. 今後に向けて

今回の調査結果から、一部の教科で、国平均、府平均を上回る成果がみられました。このことから、本市における授業改善の成果がみられます。しかしながら、各設問を個別にみると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き授業改善を図る取組みを推進する必要があります。今回の結果等から明らかになった課題について、教育委員会、学校等で連携しながら、さらなる改善に向けて取り組んで参ります。

主な取組みは以下のとおりです。

1. 学校が学力向上のために具体的な方策を示し、教育委員会と学校が連携しながら、学校全体で組織的な取組みを推進して参ります。
2. わかる授業づくりに向けたさらなる授業力向上をめざします。
  - ◆ 児童生徒の興味・関心を高め、基礎・基本の定着と主体的、協働的な学びを大事にします。
  - ◆ 「めあて」「ふりかえり」「言語活動」を重視した授業づくりを推進します。
3. 家庭学習は、基礎・基本の定着や自学自習力の育成に重要な役割を担っています。家庭と協力しながら、家庭学習習慣の定着にむけて、さら取り組んで参ります。
4. 学校・家庭・地域で、子どもを育て参ります。
  - ◆ 「毎日朝食を食べている」子どもの割合は、小学校、中学校ともに全国平均とほぼ同じ割合になり、昨年よりポイントが伸びました。貝塚市の小、中学校の子どもの生活アンケートより、朝食について肯定的回答をした子どもの平均正答率は、否定的回答をした子どもの平均正答率よりどの教科も高くなっています。このことから、朝食と学力には相関関係があると考えられます。「早寝、早起き、朝ごはん」運動を引き続き推進して参ります。
  - ◆ 1日あたりテレビゲームを2時間以上する子どもの割合は、全国平均よりも高く、また中学校では、昨年より増えています。携帯・スマートフォンの使用（2時間以上）については、国・府平均よりも高くなっています。家庭での過ごし方は、引き続き改善が必要です。

これからも、本市では、学校・家庭・地域で子どもの学びをしっかりと支えていけるよう取り組んで参りたいと思いますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。